

5年古典（古文）「説話③」「漢文①」確認クイズ解答・解説

説話プリント③

\*天徳御歌合の勝者は？ 正解イ（兼盛） 本文9行目参照。

\*判者が判定に迷ったのは？

正解ウ（どちらの歌もあまりに素晴らしかったから）

「名歌なりければ」とあり、「けれ」（過去の助動詞「けり」の已然形）＋「ば」ここでは、「～たから」と「原因・理由」になります。「なり」は「断定（だ・である）」の助動詞。

\*歌合の判定の決め手になったのは？

正解イ（帝のご意向をうかがい、和歌を口ずさんだ回数で決めた）

「天気」は、ここでは「帝のご意向」という意味。和歌を口ずさんだのは「帝」。

\*『沙石集』の編者無住は忠見に対してどのような思いを抱いているか？

「よし（由）なし」のここでの意味は「よくない」というマイナス！

「あはれに」（形容動詞「あはれなり」）は、ここでは**感動する**プラスの気持ちを表現。

仏教説話集である『沙石集』で、編者の僧である無住は「執心」に対しては否定的な立場をとるが、これほどまでに和歌の道に情熱を傾けた忠見に、心打たれずにはいられない。

「ども」は「**逆接**の接続助詞」のため、訳は「～けれども」となる。

- ・命を失うほど執着するのは良くないけれど、一つの道に打ち込む忠見の姿勢は大変素晴らしいという思いを抱いている。
  - ・執着することはよくないが、歌道に対する熱意は素晴らしいと思っている。
  - ・執着する心はよくないけれども、歌道に熱心に打ち込む姿勢は素晴らしいことだ。
  - ・ものごとに深く囚われるのはよくないが、歌に対する思いは心を動かされる。
  - ・一つのことに執着することはよくないが、歌の道を深く心にかけるのは感動的である。
- と思っているが、一つのことに心を囚われすぎだとも思っている。

- ・ 執着するところはよくないが、熱心に歌道に取り組む姿は殊勝なことだという思い。
- ・ 歌道に熱心に取り組む姿勢を称賛している。
- ・ 忠見の歌に対する熱意を評価している。
- ・ 物事に執着しすぎる心は良いものではない。しかし、歌の道に心を深く傾けるのは感動を覚える。どちらも優れた歌だ。
- ・ 物事に深くとらわれるあなたの心は良くないけれど、歌に対して熱心であることは心が動かされる。
- ・ こだわりすぎるのは良くないが、忠見の和歌に取り組む姿勢は感心だ。
- ・ 歌への強い想いは評価しつつ、執着心については批判している
- ・ 物事に執着する心はよくないが、歌道を深く心にかける習慣は、心が動かされる。
- ・ 編者は、忠見の死にまで至った執着度に対して、事物にあまりにも執着することはよくないけれど、しかし「熱意を持ち打ち込む姿勢は心動かされる」、つまり忠見の歌に対する姿勢はプラスに捉えていると言える。
- ・ 執着するのはよくないことだが、歌道に熱心になる忠見の姿勢は素晴らしい。
- ・ 一つのことにずっと執着心を抱くのはよくないけれど、歌にあそこまで執着出来る忠見はすごい人だし、感慨深い素敵の人だ！
- ・ 歌道に熱心に打ち込む忠見は殊勝な人物だと考えている。
- ・ 和歌に対する思いの強さに心を打たれている
- ・ 物事に執着することはよくないが、歌に対して熱心に励むことに対しては素晴らしいことだと思っている。
- ・ 物事に深くとらわれる心はよくないが、歌の道に命をかけられる程没頭できることの素晴らしいさに深く感心している思いを抱いている。
- ・ 物事に深く囚われてはいけない

- ・ひとつの物事に囚われすぎるのは良くないことである。一方で忠見の歌にかける気持ちの大きさが他の人の心を動かすこともある。また、最終的に選ばれたのは兼盛の歌だが、どちらも拾遺集に収められるくらい良い歌だったことは間違いない。

#### 漢文①

\* 逆鱗に触れるの意味は？

正解イ（目上の人をひどく怒らせる）

\* 『韓非子』はどのような思想を代表する書物か

正解ウ（法家の思想）

※ 「夫れ」の意味は？

正解ア（そもそも） 発語と呼ばれ、言い出しに用いる語。語気を強める！